

緊急特集 透析室の洪水・土砂災害対策―西日本豪雨災害を受けて

企画に当たって

西 慎一*

日本列島は災害列島ともいわれる。太平洋プレートやフィリピン海プレートが大陸側の北米プレートやユーラシアプレートに沈み込む位置に列島が存在することから、大地震が発生しやすい。毎年、初夏から秋にかけ太平洋上で発生した台風は、西進した後に偏西風により日本列島を縦断する形で北上する。地震と台風は、過去幾度も日本列島に大きな自然災害の爪痕を残してきた。また、地球温暖化の影響か、近年になって強力な線状降雨帯の発生から大雨被害が日本各地に連続的に発生するようになった。

大きな自然災害が発生する度に、広域に及ぶライフライン遮断が発生する。水と電気の供給が途絶えれば、透析医療は不能に陥り患者の生命維持に危機が及ぶ。これに対応するためには、自衛手段として自家発電、大型貯水槽の準備、行政・自衛隊などとの連携による優先的な水・電気の供給確保などを日ごろから心がけなければならない。また、ライフライン途絶時には、通信設備もダウンし、病院患者間、病院間、病院行政間の連絡にも支障が生じる。交通網の遮断から必要な患者移送の手段確保にも困難が生じ、八方塞がりの状態に陥る。だからこそ、透析施設は平時から自然災害発生時の対策を準備し、繰り返し経験事例を教訓として学ぶ必要がある。

この緊急特集では、2018年7月に発生した西日本豪雨災害（平成30年7月豪雨）による透析施設の被害実態とその対策を取り上げた。筆者の方々に、短い執筆時間で原稿を書き上げていただいた。この場を借りて深く御礼申し上げたい。読者の方は、是非この企画内容を自施設における対策準備に役立ていただければと思う。

近い将来、周期的な観点から日本各地に大地震が襲来することが予測されている。直下型の首都圏地震、大津波を伴うことが危惧される太平洋沖で発

* 神戸大学大学院医学研究科腎臓内科/腎・血液浄化センター



生が予測されている南海トラフ地震、そして、地球温暖化の影響によるものか、超大型台風の頻回発生と日本列島直撃、さらにこれらの地震・風水害による広域停電、ブラックアウトが長時間持続することも危惧されている。透析医療にとって、21世紀の自然災害対策は、決して油断の許されない喫緊かつ重要な課題ではないだろうか。
